

看護学科在学生、既卒者における進路に関する意識調査
看護部—看護学科連携ワーキングの活動より

上平悦子¹⁾ 三毛美恵子²⁾ 橋口智子³⁾ 霧下由美子³⁾ 新谷恵実⁴⁾
奈良県立医科大学医学部看護学科¹⁾ (仮称) 奈良学園大学設置準備室²⁾、
奈良県立医科大学附属病院看護部³⁾ 奈良県立医科大学法人企画部総務課⁴⁾

The career investigation for the undergraduate and graduate students of the Faculty of Nursing Nara Medical University by the working group for the cooperation of the Nursing Division and the Faculty of Nursing
Etsuko UEHIRA Mieko MIYAKE Tomoko HASIGUCHI
Yumiko KIRISHITA Emi SHINTANI

I. はじめに

本学看護学科と本学附属病院看護部において、平成22年度から「看護部看護学科連携ワーキング」を発足させ、教育・研究・研修・職場環境などにおいて双方が連携して取り組みを始めた。実際には3つのワーキンググループが形成され、それぞれの課題に基づいて実践が行われている。

私たちのグループは、主に学生の奈良県立医科大学附属病院（以下附属病院とする）への就職促進と看護部のキャリアパス、職場環境に関する内容の改善などに取り組んでいる。これらの取り組みにあたり検討を重ねるうちに、在学生、既卒生の進路に関する意識の実態を知る必要性が生じたため、平成23年度に在学生（3年次生・4年次生）と既卒生（1期生から4期生）に対して、進路に関する意識調査（実態調査）を実施した。今回はその結果の概要を報告する。

II. 在学生・既卒者に対する進路に関する意識調査の実施

1. 調査期間：平成23年9月～11月
2. 調査対象者：在学生（3年次生、4年次生）149名
既卒者（1期生・2期生・3期生・4期生）288名
3. 調査内容：

1) 在学生に対して

- ①基本的属性（年齢、出身地）
- ②卒業後の希望勤務先、（都道府県、職種、設

置主体別勤務先)

③勤務先を選択する理由についての質問 25項目

④附属病院を勤務先に選択しない理由 25項目（反転項目とする）

③、④両者とも（とてもそう思う～まったく思わない）の4段階で回答を求めた。

2) 既卒生に対して

①基本的属性（年齢、出身地、修業年限）

②卒業後の勤務先（都道府県、職種、設置主体別就職先）

③現在の勤務先を選択した理由についての質問 25項目

④附属病院を就職先に選択しなかった理由についての質問 25項目（反転項目とする）

③、④の質問項目、評価方法は在学生への調査と同様であるとした。また質問項目は独自で作成した。

⑤今後附属病院に再就職してもよいと思うかについて、（はい、いいえ）で回答を求めた。

4. 調査方法

1) 在学生に対して：学内で配布し場所と期限を設定し回収した。

2) 既卒者に対して：郵送で配布し回収した。

なお調査にあたっては、調査の趣旨の説明、個人情報の保護に配慮すること、調査目的以外には使用しない旨などの説明文を添付し、無記名で回答を依頼し、回答用紙の回収を持って同意が得られたとした。

Ⅲ. 結果

1. 在学生への調査結果

3年次生71名中28名回収(回収率39.4%)。4年次生78名中65名回収(回収率83.3%)。合計94名(回収率62.4%)であった。

1) 基本的属性：年齢、出身地、希望勤務地(表1.表2.表3)

年齢については24歳以上が10人と全体の約1割であった。出身地は奈良県が全体の約半数を占め次いで大阪府が19人と2割であった。他は1～3人の割合で北海道から九州の宮崎県まで全国にまたがっていた。就職希望勤務地は、大阪府が27人(28.9%)で最多であった。奈良県は6人(6.3%)で京都府と同数であった。また未回答が49人と約半数を占めた。

表1. 年齢と学生数 n=94

20歳	16(人)
21歳	31
22歳	32
23歳	5
24～30歳	4
31歳以上	6

表2. 出身地と学生数 n=94

奈良県	52(人)	北海道	1
大阪府	19	石川県	1
京都府	6	愛媛県	1
兵庫県	3	高知県	1
和歌山県	3	広島県	1
香川県	2	宮崎県	1
島根県	2	三重県	1

表3. 希望勤務地 n=94

大阪府	27(人)	静岡県	1
奈良県	6	三重県	1
京都府	6	和歌山県	1
東京都	1	島根県	1
岐阜県	1	未回答	49

2) 現在考えている卒業後の進路について

①職種別の希望者数(第1～3希望)

第1希望として看護師が69人であり助産師保健師との比較において顕著に多かった。しかし助産師と比較すると保健師は第2希望25人(48.1%)第3希望19人(36.5%)と

高い比率を示した。大学院への進学を希望する者が4人であった(表4)。

②設置主体別希望者数(第1～3希望)

附属病院を第1希望とする学生は31人であった。その他の施設を希望する学生は残り63人でその内訳は、附属病院以外の県立病院4人、他の大学病院24人、その他公共施設14人、私立病院13人、その他赤十字系病院など8人である(表5)。

表4. 職種別希望者数

	第1希望	第2希望	第3希望	
看護師	人数	69人	17人	1人
	割合	79.31%	19.54%	1.15%
助産師	人数	9人	1人	4人
	割合	64.29%	7.14%	28.57%
保健師	人数	8人	25人	19人
	割合	15.38%	48.08%	36.54%
進学	第1希望	第2希望	第3希望	全体数
人数	4人	16人	9人	29人
割合	13.79%	55.17%	31.03%	100%

表5. 設置主体別希望者数

奈良医大病院	第1希望	第2希望	第3希望	全体数
人数	31人	16人	8人	55人
割合	56.36%	29.09%	14.55%	100%
他の大学病院	第1希望	第2希望	第3希望	全体数
人数	24人	10人	11人	45人
割合	53.33%	22.22%	24.44%	100%
その他公共	第1希望	第2希望	第3希望	全体数
人数	14人	15人	8人	37人
割合	37.84%	40.54%	21.62%	100%
私立病院	第1希望	第2希望	第3希望	全体数
人数	13人	7人	12人	32人
割合	40.63%	21.88%	37.50%	100%
その他	第1希望	第2希望	第3希望	全体数
人数	8人	2人	0人	10人
割合	80.00%	20.00%	0.00%	100%

*その他の施設とは赤十字系病院、官公庁(保健師)他が含まれる

3) 勤務先を選ぶ条件について

(1) 勤務先を選ぶ条件について

勤務先を選ぶ条件 25 項目について 4 段階で回答を得たものを、さらに「思う」、「思わない」の 2 群に分類し降順 (図 1) に示した。「思う」の上位 3 位をリストアップすると 1 位「教育制度が充実している」88 人 (93.6%)、2 位「勤務体制が希望に合っている」「研修施設が充実している」87 人 (93.5%)、3 位「院内の施設設備が充実している」「職場の雰囲気・人間関係がよい」85 人 (90.4%) と高い割合で続いている。

一方、最下位から見ると、順に「奨学金制度がある」35 人 (37.2%)、「家族、知人が勧めた」48 人 (51.6%)、「保育園・託児施設がある」51 人 (54.3%) であった。

(2) 勤務先を選ぶ条件 (決め手となる 3 つを選択) について

この質問は先の勤務先を選択した理由として 25 項目すべてに 4 段階で回答した上に、さらに同じ質問項目を使用し、その中でも特に決め手となる 3 つの条件の選択を求めたものである。図 2 は 3 つ選択した結果を多い順に示したものである。1 位は「職場の雰囲気・人間関係がよい」55 人、2 位「教育制度が充実している」38 人、3 位「給与や手当が希望に合っている」21 人であった。

(3) 決め手となった理由 (上位 3 位)

次に決め手となった理由の具体的な内容をみると、1 位の「職場の雰囲気・人間関係がよい」は直接仕事と関係することであり、よい環境で仕事ができるということは楽しんで仕事ができ、また長く続けるうえで最も重要であると位置づけていた。2 位の「教育制度が充実している」は、新人の間にしっかり教育してもらいたい、教育をきちんと受けることでよい成長が期待できる、また看護技術に不安があるので教育をしっかりしてほしいなどの記述がみられた。次に 3 位の「給与や手当が希望に合ってる」の理由として、生活力として収入は大事、働きに見合った給料をもらうことで、仕事

への動機づけになるなどの意見があった (表 6)。

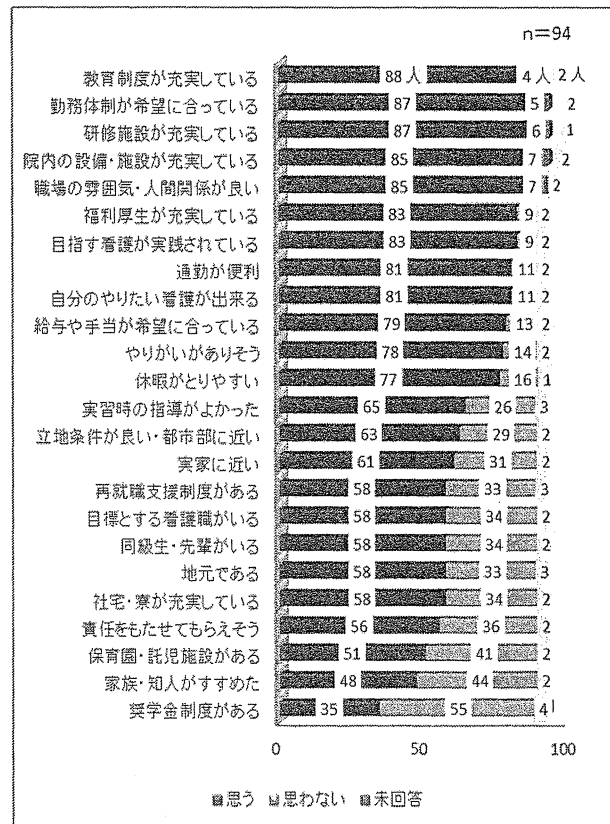


図 1. 勤務先を選ぶ条件

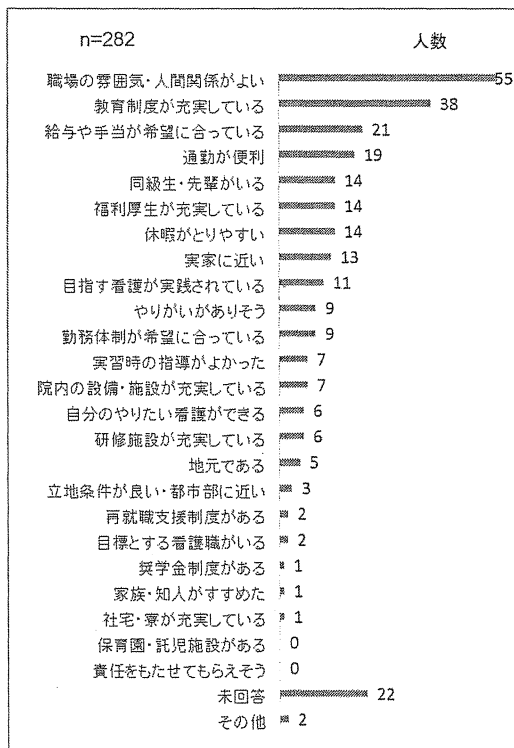


図 2. 勤務先選択時の決め手となった 3 つの条件

表 6. 職場選択で決め手となった理由

決め手となった理由	1位	職場の雰囲気・人間関係がよい
・ 職場の雰囲気、人間関係がよい		
・ よく人間関係が大変だとさきから		
・ 働くのが苦痛でなくなるようにするため		
・ インターンシップに参加して、職場の雰囲気が良かった		
・ 働く上で、スタッフ同士の連携が患者さんにも影響すると思うから		
・ 長く続けるためには必要であると思う		
・ 職場のメンタルヘルスは勤務継続に重要		
・ 雰囲気や人間関係は、そのまま仕事にも出ると思うから		
・ 職場の雰囲気、人間関係がよい。もっとも一番大切だと思うから		
・ 自分自身が良い環境にいる方が仕事が楽しめそうだから		
・ 仕事を行う上で、相談に乗ってもらえたりできる環境の方がよい		
・ 職場での人間関係が悪いとしんどくて仕事ができないように思うため		
・ 人間関係や雰囲気にとても敏感なので		

決め手となった理由	2位	教育制度が充実している
・ ちゃんと働けるようになりたいので。		
・ 新人として扱われるのは初めの病院だけなので、しっかり教育してもらいたい		
・ 新人NSとして働くために教育は大切だと思う。		
・ 看護技術に不安があるので、教育をしっかりしてほしいから		
・ 教育制度が充実している方が安心する。心強い。		
・ 働きながらも学び続ける姿勢を持ちたいから		
・ 看護職としてスタートする上で、重要だと思う。医療の世界は新しい事が多い。		
・ 院内・院外研究が行われている。ラダーが明瞭である		
・ 教育制度が充実している病院は、スタッフも患者も大切にしていると感じるから		
・ 修行するつもりで選んだかったので、一番重要だった		
・ 実習やインターンシップの時、新人教育がしっかりしてと思った		
・ 就職につながる		
・ 看護師として良い成長が出来る		

決め手となった理由	3位	給与や手当が希望に合っている
・ 将来に向けて貯金したい		
・ 長くつづけられるから		
・ どうせ働くなら給与が良い方が良いから		
・ 給与や手当が希望にあっていると生活も仕事もしんどくなりそう		
・ 生活力として収入は大事		
・ 経済的な視点も必要となってくると思うから		
・ 親の支援をうけず自立できるようになりたいため		
・ 人の命を扱う職として最低限の給料はもらいたい。		
・ 生活していくために必要なものだから		
・ 自分が働いた分に見合った給与がもらえることで、また頑張ろうと思えるから		
・ 給与が仕事内容にあっていないと、やりがいを感じないため		

4) 勤務先選択における情報取得について
3つ以内の複数回答を求めたところホーム

ページ、病院見学、説明会の順で多く見られた。一方親や友人を情報源とするのは少数であった。またその情報は思った通りであったか否かの問いには、約6割の学生が思った通りであったと答え、思った通りではなかったと答えたのは1割半でありその主な内容は、雰囲気が人によって感じ方が違う、働く看護師の表情や話を聞きさらに良いイメージをもった。などであった(表7.表8.表9)。

表 7. 情報の取得元と人数(3つ選択可)

ホームページ	57	20.14%	実習	23	8.13%
病院見学	50	17.67%	インターンシップ	23	8.13%
説明会	46	16.25%	友人	8	2.83%
パンフレット	38	13.43%	親や友人	7	2.47%
先輩	31	10.95%	その他	0	0.00%
				全体	283
					100%

表 8. その情報は思った通りであったか

設問内容	選択数	割合
思ったとおり	57	60.64%
少し違った	13	13.83%
全然違った	1	1.06%
未回答	23	24.47%
全体	94	100.00%

表 9. 情報の「少し違った」、「全然違った」の内容

- ・ 予想よりも病院が狭く、きれいではなかった。環境面でのギャップが大きかった
- ・ 実習に入った友達がすごくしんどいと言っていた
- ・ 実際に見ると、雰囲気や看護師、患者の表情などに違いがあったと感じた
- ・ 職場の人間関係はパンフレットでは見えない。実習等で体感してはじめてわかる
- ・ 雰囲気が人によって感じ方が違う
- ・ 面接時に年齢のこと、何度も繰り返し質問され不安な気持ちになった(奈良医大)
- ・ 看護師にも奨学金制度を取り入れてほしい
- ・ 自分の知らなかった情報まで病院見学や説明会で知る事ができた
- ・ 働く看護師の表情や話を聞き、さらによいイメージを持った。(やりがい、楽しさ)
- ・ 基本給が思っていたより低かった

5) 附属病院を就職先に選ばない理由

(1) 附属病院を就職先に選ばない理由について

先の勤務先を選ぶ条件として使用した、同内容の質問票(25項目)により(とてもそう思う~まったく思わない)の4段階での回答を求め、52人の回答があった。さらにその結果

を「思う」「思わない」の2群に分類した(図3)。附属病院を就職先には選ばない理由の「思う」の上位を占めたのは順に、「立地条件が悪い・都市部から遠い」35人(67.3%)、「実家から遠い」、「地元でない」30人(58.9%)、「通勤が不便」、「社宅・寮が充実していない」28人(53.8%)であった。

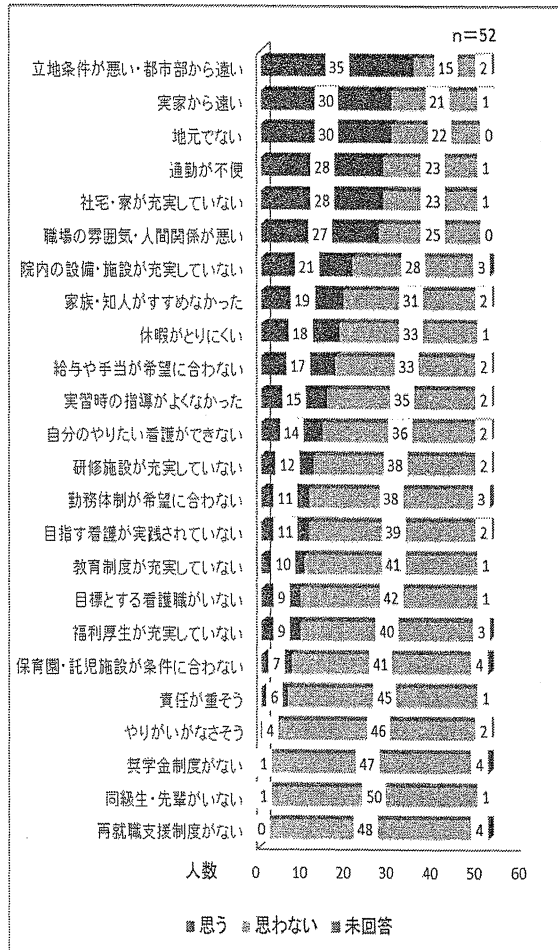


図3. 附属病院を勤務先には選ばない条件

(2) 附属病院を就職先には選ばない条件(決め手となる3つを選択)

決め手となる3つの条件を選んでもらった結果多い順に、「実家から遠い」、20人(12.8%)、「立地条件が悪い・都市部から遠い」「通勤が不便」「地元でない」「職場の雰囲気・人間関係が悪い」以上4項目は同率で13人(8.3%)であった。

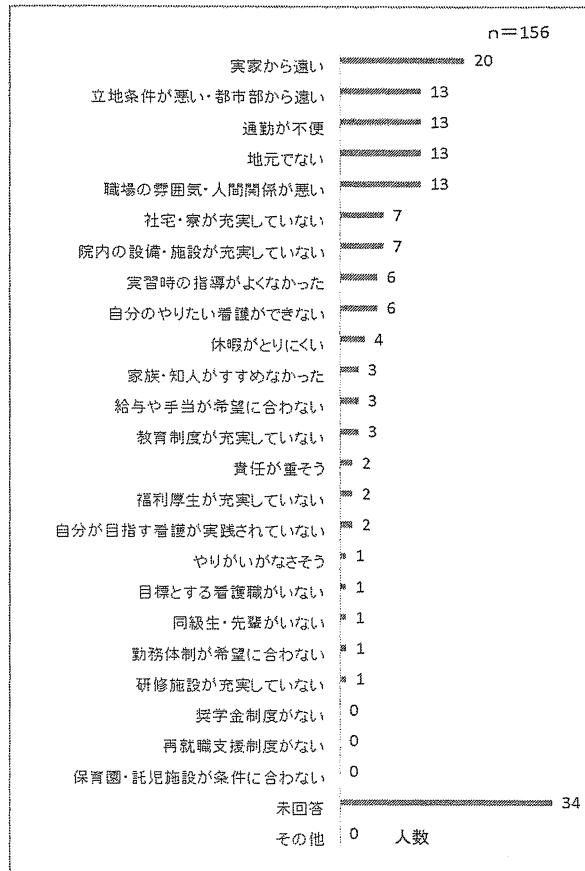


図4. 附属病院を勤務先には選ばない決め手となった3つの条件

2. 既卒者への調査結果

288名中90名の回収(回収率:31.2%)であった。

1) 基本的属性(年齢、出身地、勤務先住所)

本学看護学科は、調査実施時において卒業生をまだ4期生を輩出したところである。そのため年齢はほとんどが30歳までである。出身地は奈良県が最多で40人(44.4%)であり、次いで大阪府の24人(27.1%)となり他は一桁台であった。しかし、勤務先住所は奈良県29人、大阪府32人と出身地と逆転した結果であった。1番目~3番目の勤務先を設置主体別に見ると、中・小規模を17人が民間の医療機関を27人が選択していた(表10~16)。

表10.年齢と人数 n=90

22歳	9(人)
23歳	24
24歳	8
25歳	27
26~30歳	17
31歳以上	5

表11.出身地と人数 n = 90

奈良県	40(人)	愛知県	1
大阪府	32	和歌山県	1
京都府	4	滋賀県	1
静岡県	4	福井県	1
三重県	2	山口県	1
兵庫県	2	鹿児島県	1

表12.1番目の勤務場所 n = 90

北海道	1(人)	大阪府	32
東京都	2	兵庫県	4
神奈川県	1	奈良県	29
静岡県	2	福岡県	2
京都府	2	未回答	15

表13. 1番目の勤務先の在職期間 n = 90

在職期間	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	未回答	全体数
人数	27	26	17	17	1	2	90
割合	30.00%	28.89%	18.89%	18.89%	1.11%	2.22%	100.00%

表14. 職種別希望者数

		第一希望	第二希望	第三希望
看護師	人数	56	7	2
	割合	0.63	0.37	0.67
助産師	人数	20	3	1
	割合	0.22	0.16	0.33
保健師	人数	10	7	0
	割合	0.11	0.37	0.00

表15. 勤務先施設の規模と人数

勤務先施設の規模と人数				
勤務先規模	大	中	小	未回答
1番目	38(人)	9	8	35
2番目	3	1	3	10
3番目	0	1	1	0

表16. 1~3番目の設置主体と人数

設置主体	民間	公的機関	未回答
1番目	27(人)	46	17
2番目	10	5	2
3番目	3	0	0

2) 勤務先を選択した条件
(1) 勤務先を選ぶ条件

在学生対象の調査と同様に職場を選ぶ条件25項目について4段階で回答を得たものをさらに「思う」、「思わない」の2群に分類し順(図5)に示した。

「思う」の上位から順に、「勤務体制が希望に合っている」72人(80.9%)、「やりがいがありそう」67人(75.3%)、「職場の雰囲気・人間関係が良い」66人(74.2%)と大差なく続いている。下位の項目をみると「奨学金制度がある」13人(14.6%)、「実習時の指導が良かった」17人(19.3%)、「再就職支援制度がある」20人(22.5%)であった。

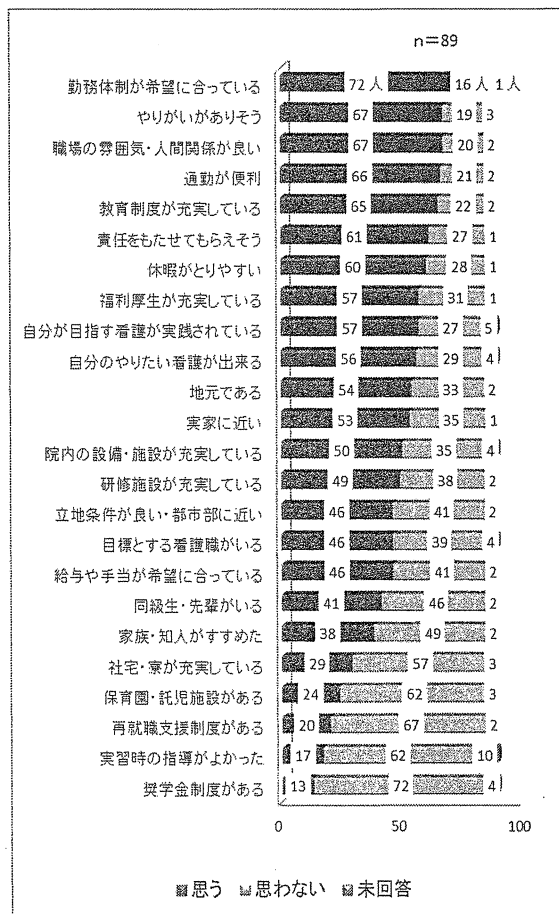


図5. 勤務先を選択した条件

(2) 就職先を選ぶ条件(決め手となる3つを選択)

その結果を降順に示した(図6)。上位から順に、「勤務体制が希望に合っている」28人(10.5%)、「実家に近い」27人(10.1%)、

「教育制度が充実している」24人(9.0%)と続いている。

(3) 選択時の決め手となった理由(図6)

1位の「勤務体制が希望に合っている」の理由として、2交代制を支持する意見と、家族の都合などにより、夜勤がなく土、日が休みであるため働きやすいという理由が記されていた。2位の「実家に近い」は実家に生活の基盤をおいて、そこから遠くない距離の医療機関で働きたいという意見が述べられていた。3位の「教育制度が充実している」は、新人の間に特に弱い技術などを中心に、教育プログラムがしっかり組まれている、大学病院などで教育を受けたいという思いが記されていた(表17)。

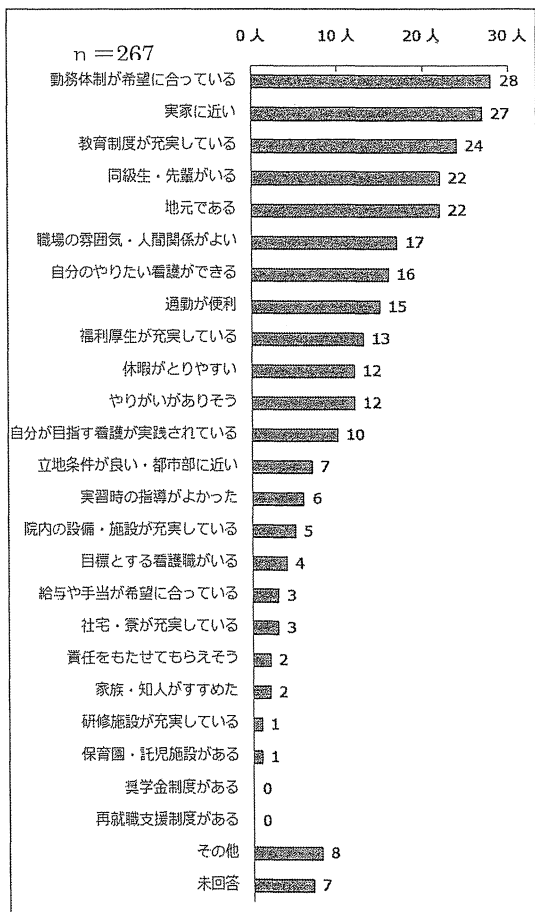


図6. 選択時の決め手となった3つの条件

表17. 職場選択で決め手となった理由(上位3位)

1位 勤務体制が希望に合っている
・ 2交代の病院を希望していた
・ 夜勤がない。土日祝日が休み。
・ 日勤のみの仕事である
・ 平日、日勤のみを希望していた
・ 人員が多いと急な休みも取れる
・ 日勤のみの方が体力を考えたときによかったため
・ 主人の休みに合わせてくれるため働きやすい
・ 生活リズムが整えられる
・ 子どもがいるのでパートで希望を聞いてもらえている
・ 夜勤の開始時間や頻度が希望に合っていた
・ 体に負担なく続けられると思ったので
2位 実家に近い
・ 自宅から通いたかったから
・ 実家に近い
・ とりあえずお金を貯めるため
・ 自宅から30分で通勤可能なので
・ 自宅から通えることが第一条件であったため
・ 家族からのサポートを受けやすく安心
・ 実家まで自転車で5分程の場所にある
・ 一年目は、体力的にも精神的にもしんどくなることも考え、独り暮らしは避けたかった。
3位 教育制度が充実している
・ 教育制度の充実
・ 新人教育に力を入れているから
・ 生涯看護師として働いていくためには成長を続けていく必要があるから
・ 一年を通じてゆっくりと職場に慣らしてもらえた
・ 大学病院で、教育制度が整っていたから
・ 最初の1ヶ月は合同研修で技術演習等がある。
・ 全体分働件数が多く、1年目から数多くの分働介助につかせてもらえる
・ 就職前後に技術面での研修等があり自信につながった。
・ 新人教育制度、卒後教育体制が充実している。
・ 1年目なので基礎を身につけたかった
・ 新人研修が定期的(1回/月)にある
・ 管理職になるための制度が整っている
・ 説明会での説明で、充実していると思った。
・ ローテーション研修がある
・ 職場の教育体制が明確に説明されていた

3) 勤務先選択における情報取得について

(1) 情報の取得元は主にホームページ、説明会、病院見学、実習などからであった。
 (2) 次にその情報の真偽について訊ねたところ、「思った通りだった」と、「思った通りではなかった」が約半半の割合であった。「思った通りではなかった」の具体的な内容は、

表 20 にその一部を示すように、看護師、保健師、助産師それぞれに多様な内容が出されていた。それは、入職前に得た情報により思い描いた内容との比較において差が大きかったものがあり、その具体的なものとして特に人間関係の悪さ、仕事内容の相違、給与や手当、休暇の取りにくさ、福利厚生面の不備など多岐にわたっていた。

表 18. 勤務先情報取得元 (3つ選択可)

ホームページ	43	20.98%	インターンシップ	10	4.88%
パンフレット	17	8.29%	親や知人	8	3.90%
実習	22	10.73%	先輩	18	8.78%
病院見学	29	14.15%	友人	10	4.88%
説明会	32	15.61%	その他	16	7.80%

表 19. その情報は思ったとおりであったか

設問内容	選択数	割合
・ 思ったとおり	45	50.6%
・ 少し違った	37	41.6%
・ 全然違った	3	3.4%
・ 未回答	4	4.5%
・ 全体	89	100.0%

表 20. その情報は「少し違った」「全然違った」の内容

- ・ 教育制度が整いすぎて休日等の研修が多い。
- ・ 入社前の説明会で言っていたことと給料や仕事が変わったため
- ・ 保健師であるが病院の日直・当直でNSの仕事もしなければならない
- ・ 新人教育は、看護部では努力しているが現場での教育は放任傾向にある。
- ・ 違ったというよりは、働きはじめて見えてきた現状が多くて戸惑った。
- ・ 職場での人間関係や、仕事内容が想像以上に激務、
- ・ 全く予想していなかったところに配属先になったため
- ・ 人間関係が入ってみたら悪かった。異動した。
- ・ 内部の事情は入ってみないと分からない
- ・ 勤続年数により関われない助産業務があり (入職前には知らなかった)
- ・ 離職率が高く、無理な仕事量が多い
- ・ 分娩件数の割に古くて分娩台の台数も少ないことを入職してから知った。
- ・ 個人病院なので、福利厚生が充実していない。
- ・ 人間関係最悪、やりたい勉強 (領域) できない。(配属の希望通らず)
- ・ 保健師の仕事の細かい部分まで学生時代は分かっていた。
- ・ 保健所実習があれば政令都市で働く際の参考になったかもしれない。
- ・ 給与や手当が書いてあるものより低かった。
- ・ 休みがとりにくい。仕事に見合った給料でない。
- ・ 思ったより急性期でハードである

4) 附属病院を就職先に選ばない理由

(1) 附属病院を就職先に選ばない理由

図 7 は在学生と同じ質問票により附属病院を就職先に選択しなかった理由を見たものである。64 名が回答した。「思う」の上位から順に「職場の雰囲気・人間関係が悪

い」48 人(75%)、「地元でない」47 人(73.4%)、「立地条件が悪い・都市部から遠い」、実家から遠い 45 人 (70.3%) と続いている。

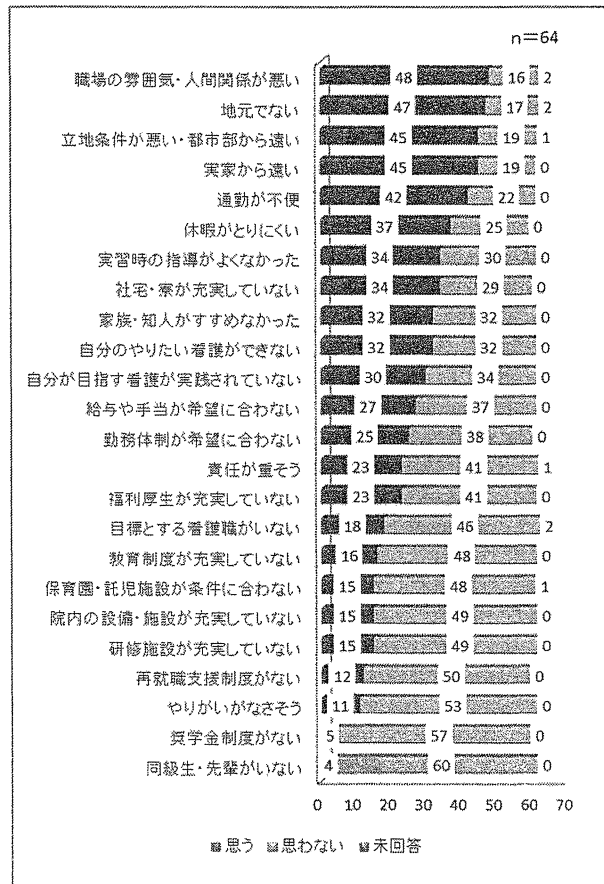


図 7. 附属病院を就職先に選ばない理由

(2) 選択時の決め手となった理由 (決め手となる 3つを選択)

上から順に、「実家から遠い」26 人(13.5%)、「地元でない」、「職場の雰囲気・人間関係が悪い」18 人(9.3%)と続いている (図 8)。

次にこれら理由の具体的内容 (表 21) は、学生時代に親元から離れて生活して辛かったから実家から通いたい、や奈良県以外の出身者で地元から職場へ通勤したいという希望が見られた。また職場としてみたとき実習時や先輩からの情報により、人間関係の面で問題を感じている様子が記述されて

いた。

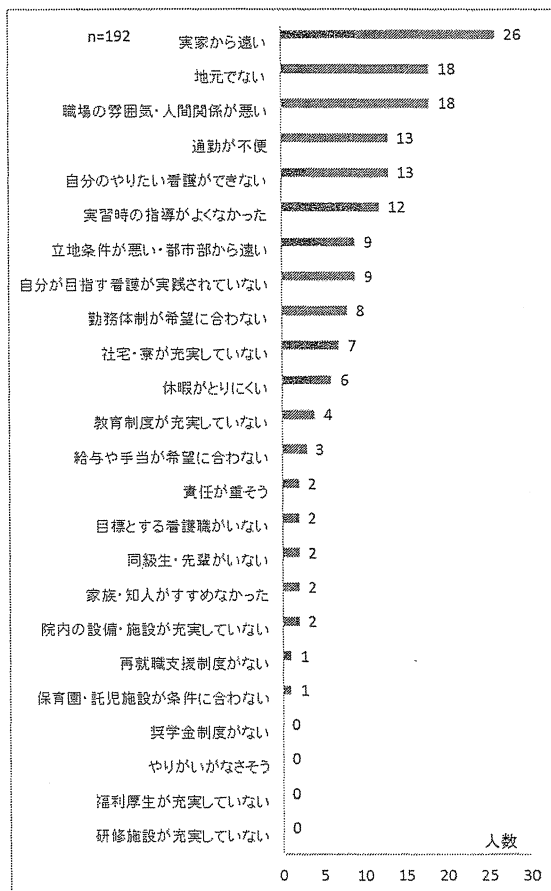


図 8. 附属病院を就職先に選ばない決め手となった 3つの条件

表 21. 附属病院を就職先に選択しない理由(1~3位)

1位 実家から遠い	
・ 実家から通えるところで就職したかった	
・ 学生の後半一人暮らしをしたが不便さを感じた	
・ 大阪で働きたいため	
・ 地元に戻りたかった。	
・ 実家が兵庫県であり親が病身で高齢であるため	
・ ずっと続けたいので通勤が便利なおことは重要だった	
・ 一人暮らしは家族と離れて辛かった	

2位 職場の雰囲気・人間関係が悪い	
・ 人間関係があまり良くないと聞いていたから	
・ 実習中、雰囲気が悪い部署が多かった	
・ 先輩から人間関係の悪さなど聞いていたから	
・ 厳しいと噂されることが多かった	
・ 職場の雰囲気・人間関係が悪い	
・ 病棟(旧館)が古い、暗い	

2位 地元でない	
・ 奈良から出たかったから	
・ 地元の医療の質向上に努めたかった	
・ 地元での就職は大学入学時から決めていた	
・ 奈良出身でないため	

3位 通勤が不便	
・ 駅から遠い	
・ 職員駐車場がいつもいっぱいである	
・ 電車の本数が少なく、大阪市内より遠い	
・ 通勤が不便	
・ 近鉄の本数が少ない	
・ 寮の条件が悪い	

3位 自分のやりたい看護が出来ない	
・ 小児科に行けるとは限らないのが不安だった	
・ 保健師として働きたかったから	
・ 地域で働きたかった	
・ 看護師がみな業務的で、患者へのホスピタリティがまるでなかった。	
・ 大学病院は異常が多く、助産師主体ではなく、医師主体だから	
・ 大学病院のためできる手技が少ない。	
・ 正常分娩を多く経験したいと思ったから	
・ 助産師として最初は、正常な分娩が多い病院に行きたかった。	
・ 希望の部署に配属される確信がなかった。	
・ 点滴をドクターがうつので、点滴における技術UPが難しい、	
・ 大学病院というところなので、きっと重症ばかりだろう…と	

表 22. 附属病院への再就職の希望者数

再就職	はい	いいえ	未回答	全体数
人数	16	52	1	69
割合	23.19%	75.36%	1.45%	100%

3. 現状からみた課題と今後の方向性

以上、本学看護学科の在学生・既卒者両者を対象とした調査の概要を報告した。

回収率から考えると全員の意向や意識を代表しているとは言いがたいが、しかし彼らの進路に関しての考えや意識の一端を窺い知ることにはできる。その中から、今後に向けての課題や方向性を検討する必要があると考える。下記にそのいくつかを挙げてみる。

1) まず職場選択において重要視している主なものとして (順不同)

①職場の立地条件の良否に着目 (都会志向、通勤の不便さなど)

②地元や実家からの通勤に対する高いニーズ
(主に他府県からの学生)

③職場の雰囲気や人間関係の良さからくる働きやすさの重視

(実習や先輩から聞いて知っている附属病院の実情と、情報のない他施設)

④整った教育体制のもとでの十分な教育の期待

(特に新人教育の内容を重視)

2)「勤務先の情報はその通りだったか」の質問に対して、半数が違った・少し違ったと答えていること、またその具体的内容においてはさまざまな内容であり、情報通りでなかったケースが多くあることがわかった。期待していただけに失望も大きいことがうかがえた。

3) 附属病院以外の施設への就職者に対して再度附属病院へ再就職を希望するかの質問(表 22)に対して、「はい」は 16 人(23.2%)であった。

2)、3) から考えると、卒後も継続して再就職を呼びかける機会があってもよいのではないかと考える。

今回の調査結果において抽出された課題を中心に、今後看護部一看護学科のワーキングにおいて、引き続き検討していく予定である。

謝辞

今回の調査に当たりご協力いただいた学生の皆様、卒業生の皆様に心よりお礼申し上げます。